

百年の森に木を植える、それは！

●井口さんからのメールをいただいて！

先ほど浦高同期生の井口 巖さん(高25期、同期選出理事で百年の森運営委員会委員)からメールにて「浦高百年の森」の写真をいただきました。

◇ ◇

■百年の森



〔上の2枚は野球部OB会の記念樹・アオダモ、下の3枚が私たち25期会で植えたトチノキ、いずれもしっかりと育っています〕

香田さま。こんばんは 今日天気はいまいちでしたが、百年の森に行ってきました。モミジがきれいに色づいて、鳥の囀りだけが聞こえる至福の時を過ごしました。木々は葉を落としています、しっかりと冬芽をつけていました。写真を添付します。初めの2枚は、野球部OBのアオダモですので、山田さんに転送していただければ幸いです。ではまずは報告まで。井口巖 [11/26(火) 18:35]

◇ ◇ 同期会での記念植樹を提案してくれたのが井口さんです。そして植えっぱなしの私と違って、彼の素晴らしいところはこうして時々一人で「浦高百年の森」を見守りに行くことです。感謝！

私の好きな詩に谷川俊太郎さんの「木を植える」があります。

◇ ◇

■「木を植える」 作：谷川俊太郎

木を植える
それはつぐなうこと
わたしたちが根こそぎにしたものを

木を植える
それは夢見ること
子どもたちのすこやかな明日を

木を植える
それは祈ること
いのちに宿る太古からの精霊に

木を植える
それは歌うこと
花と実りをもたらす風とともに

木を植える
それは耳をすますこと
よみがえる自然の無言の教えに

木を植える
それは知恵 それは力
生きとし生けるものをむすぶ

◇ ◇

2005年に5ヘクタールの山を借り、生い茂っていた雑木を整理して、生態系に配慮しつつも10月に新たな木々を植栽してスタートした「浦高百年の森」、手入れに入るOBたちも13歳近く高齢化が進みました。最初の人たちは、私たちが根こそぎにした環境を反省し償うための植栽だったかも知れませんが、100年後の子どもたちにこの木を使った木造建物をプレゼントするという夢を持っていました。今、参加してくださるPTAの皆さんや現役生徒たちには、夏の暑さの中での草刈りや秋の稔りの季節の恵みを味わってもらい、山への感謝と山へ入る喜びを享受してもらいたいと思います。そして、山で学んだことを次の世代へと引き継ぎ、新しい知恵と力でこの森を受け継いでいって欲しいと願います。

30年をひと世代とすると3~4世代へのバトンを繋ぐこととなります。百年の森では60代~75歳までが働き盛りとされています。私たちもあと10年、この森を次世代に受け継ぐための力と知恵を出さなければなりませんね。私たちが植えたトチノキも成木になるまでには、あと15年程度はかかると思います。年に1~2度ですが、木の成長を見守りに山へ行きたいと思います。